

外部評価 令和5年度 中央小学校外部評価報告書

評価委員：鈴木一弥委員長、神崎忠久副委員長、鈴木英子委員、高安正美委員、片山英治委員、豊田一成委員

報告書作成者：鈴木一弥委員長

評価時期 令和6年2月

1 重点目標の評価

重点目標1について

保護者の評価は「よくあてはまる」「あてはまる」の評価が概ね9割を得ていて目標はおおむね達成されているとの評価だった。教員の評価が保護者より低いのは、重点目標1に限らず教職員の自己評価に厳しい姿勢があるからだと考える。道徳教育に関する学校評価アンケートの保護者による評価が高い点は、学校の取り組みが結実している。今後も重点目標1の道徳教育への関心が高まっていくと考えられ、取組の継続と工夫が求められる。

重点目標2について

評価項目①の「どの子どもも分かる授業」、評価項目②の「基礎・基本の学力の定着」の両方において、肯定的な評価が9割であり、児童の学力に対する保護者の関心が高まる中、学校の取組を評価している。各教科や学習活動の中で、一人一台を配布されたタブレット端末を活用した取り組みなどを、継続して充実させていってほしい。

重点目標3について

評価項目①の体育的活動の充実については、保護者も教員も肯定的な評価が高く、保護者の肯定的な評価は概ね9割である。全校一輪車活動などの体育的活動の成果が出ていることを認知されていると考える。評価項目②については、保護者・教員とも高く評価している。今後とも取組の継続が求められる。

2 今後の改善に向けた意見

今年度も、体力向上において一輪車活動やコーディネーショントレーニング以外の体育的活動にも取り組める時間を充実させてられた。道徳授業地区公開講座を公開できたのは、大変よかったので、地域や保護者への周知を継続して行ってほしい。学校ホームページの活用などで、情報の公開はなされているので、継続していってほしい。

3 その他の意見

地域の中での交流が減っている今、道徳教育は学校だけでなく、保護者や子どもたちのまわりで生活する地域の人々にも関わりのある課題だ。地域・保護者ともに手を取り合って子供のことを考えるという視点を持ち続けてほしい。アンケートの項目以外を選択する以外に、教職員について自由記述があってもよい。